

2015年8月10日

横浜市長 林文子 様

NPO 法人神奈川県自然保護協会  
理事長 藤崎英輔

横浜市で開催される 全国都市緑化フェアについて(要請)

横浜市が全国に先駆けてヨコハマbプランを策定するなど生物多様性を保全するなど先進的な取り組みをされておられることに敬意を表しております。

また、この度は「横浜みどりアップ計画」による、樹林地の保全や都心臨海部の緑や花による賑わいづくり、また、魅力的な都市公園の整備など、横浜市が先進的に行ってきた緑の取組の成果を発揮するとの意気込みの元、「全国都市緑化フェア」開催を計画されておられること、お慶び申し上げます。

しかしながら、この基本計画を拝見させて頂いたところ心配される点がありますので下記に指摘させて頂きました。実施計画策定に当たっては是非配慮され全国に誇れるイベントとされるよう心から祈念する次第です。

#### 記

### 1. 「里山ガーデン」については里山らしい性格付けを明確にすること。

「みなとガーデン」については都市景観にマッチしたこの計画は素晴らしいものと思えますが、「里山ガーデン」については疑問があります。

谷戸地形であるこの地域は、計画でも述べられているように「横浜らしい豊かな里山の緑が残る場所であり、横浜市水と緑の基本計画における「緑の10大拠点」に位置付けられ、緑地の保全を図る」とされる所です。

残された緑地はまた、生物多様性の観点から重要な拠点です。

ヨコハマbプランによれば、「(5)生物多様性に配慮した取組の不足があったとして、今後はあらゆる分野で総合的に生物多様性に配慮した取組を行っていく必要があります。」(参考資料18ページ)と記載されています。

基本計画を見るとき、斜面休耕地を大花壇、花じゅうたん、花木の植栽、林床に山野草を植えるなどとしています。本来里山が持つ歴史的に人と共存して、文化を育みながら存在してきた景観からはかけ離れたものが目に浮かびます。

ここでは、横浜市民にとっては貴重な、里の民の生活に根ざした里山を強調した計画とすべきと思います。

### 2. 生物多様性ゾーンにおける湿地の保全に十分留意すること

横浜市内では昭和30年代半ばから進行した宅地造成等の開発により多くの緑地が失われました。中でも最大のダメージを受けたのは湿地です。神奈川県内でも平地にある

湿地は大変貴重な存在となっています。

湿地に依存して生育・生息する植物、昆虫類、両生・爬虫類、鳥類は多く、湿地が失われつつあるが故にそのほとんどは絶滅が危惧されるものです。

横浜市が先進的に行ってきた緑の取組の成果を発揮するイベントのために生物多様性が損なわれる結果を招くとしたら不本意のことと存じます。

ここに園路等の施設を設ける時には現状維持を最重点として設計すると共に、外来種の侵入を防止するために、植栽計画のある区域から一定の緩衝地帯を設定することなど、見る人に保全のために努力していること強調し、生物多様性を啓発するものにすることを要請します。

提出者所在地

〒243-0816 厚木市林 5-15-10 NPO 法人神奈川県自然保護協会  
046-222-2356  
nacs-kana-office01@eco-kana.org